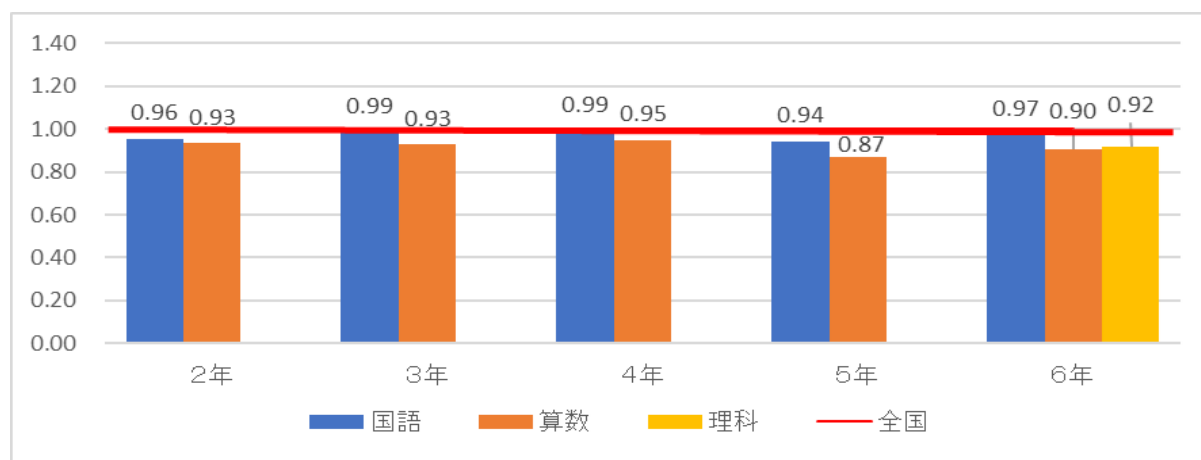


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第七中学校区 南小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は寝屋川市学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	言葉の特徴や使い方に関する事項は、ほとんどの学年で全国平均を上回ることができた。引き続き、家庭学習を中心に定着を図っていく。「書くこと」では、資料から読み取ったことを記述することに課題がある。資料からの読み取りは、教科横断的に取り組んでいく。
	算数	「図形」の領域において、課題がある。身近なもので「量感覚」を身に付けることやブロック・折り紙などで実際に図形を組み立てることなどを通して「空間認知能力」を育み、図形を言葉で説明する力もつけていく。
全国学力・学習状況調査	国語	「読むこと」「言葉の特徴や使い方」は、全国平均を上回る結果であった。引き続き、児童が伝えたい内容を整理して書く学習活動の更なる充実を図っていく。「聞くこと」では話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることに課題が見られた。話の中心をとらえて聞くことを日頃から意識して授業を行う。
	算数	「測定」の領域は、全国平均を上回った。引き続き日常生活と結び付けて指導を行っていく。「図形」の設問に課題が見られたため、台形の意味や性質について理解し、理解したことを説明できる力の育成を図っていく。
	理科	「粒子」を柱とする領域に課題が見られる。身の回りの金属や水の温まり方・蒸発・結露など、日常生活と結び付けて指導を行い、学習の定着を図っていく。
	質問紙	「自分には良いところがある」と感じている児童や「将来の夢がある」の割合が高い。これからも自らの良さに気付けるような経験を積みさせていきたい。一日当たりのゲームや動画の視聴時間が全国平均より上回っている傾向がみられる。また、家庭での学習時間も少ない傾向がある。基本的な生活習慣を整えることができるよう、保護者と連携を図っていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

学力調査から、家庭学習の改善が必要であると見取ることができた。「学習習慣の定着」と「個に応じた学習」を重点として家庭学習ノートの充実を図っていく。また、2学期に各校における実践報告と検証を校区研修会で行う。

【学校】

4月、7月、11月、2月に実施の校内学習状況調査や、2月実施予定の漢字検定に向けた取組を通して子どもたちの基礎学力の定着を図っている。また、算数科を中心に毎時間のふりかえりを丁寧に行うことで、文章力を積み重ねていく。